

# 平成30年度 第1回御殿場市総合教育会議

---

## 日時

平成30年8月10日(金) 午前1時30分

## 場所

御殿場市役所東館2階 201、202、203会議室

## 出席者

御殿場市長	若林 洋平	教育長	勝又 将雄
教育委員	勝又 英和	教育委員	佐藤 朋裕
教育委員	芹澤 えつ子	教育委員	大西 孝明
教育委員	勝又 綾子		

## 陪席者

教育部長	教育総務課長
学校教育課長	学校給食課長
学校教育課参事	教育総務課副参事
教育総務課主任	教育総務課副主任
教育総務課副主任	

## 傍聴者

17人

## 次第

- 1 開会
- 2 市長挨拶
- 3 教育長挨拶
- 4 協議事項
  - (1) 学校の多忙化～教員の多忙化、子どもの学校生活の余裕のなさ について
  - (2) 子どもの安心・安全な環境 について
- 5 閉会

# 1 開会

---

教育総務課長（進行）

---

本日はお忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。  
定刻になりましたので、ただ今から平成30年度第1回総合教育会議を開催します。  
全体進行につきましては、教育総務課の鎌野が務めさせていただきます。よろしく  
お願いいたします。

開会にあたりまして、初めに御殿場市長からご挨拶をお願い申し上げます。

## 2 市長挨拶

---

市長

皆様、改めましてこんにちは。

本日は平成30年度第1回総合教育会議ということで、多くの傍聴の皆様のご来席のもとで、非常に嬉しいことだなと思います。また、日頃より青少年の育成につきましては、皆様には多大なるご尽力いただいていることを心より感謝を申し上げる次第です。

議題につきましては後ほど紹介があると思いますが、今叫ばれているのは先生方の多忙化というのが非常に問題視されておまして、その中で私も一自治体の長として御殿場市の先生方に、先生が先生らしく、威厳と本当の意味での教師の仕事ができるように協力をするという形で進めておりますが、それをもって県の方に言ってもなかなかご理解いただけるという状況ではありません。特に、賀茂地区とか伊豆半島全体もそうなのですが、伊豆市なんかは合併した後にかなり学校を統廃合して、本来であればそれに合わせた先生の配置が必要なのですが、違った計算をされていて現場にそぐわないということもあるようです。結果的にどうなるかということ、御殿場市も一般財源をそちらに回して、何とか子ども達が良い教育を受けられるように、また先生の多忙化が少しでも軽減できるようにという意味では、御殿場市もかなり力を入れていますし、他の市町もそうだと思います。ただ本来は、そうではなくて県の方で予算を含めて現状を知っていただくことが大事ではないかなと感じておりますが、その一方で、現状の中において市でやるべきことはやっていかなければいけない状況でもあるということですので、その辺りをまた皆さんと協議できればいいかなと思います。

今日せっかく多くの市民の皆様、また議員さんもいらっしゃっておりますし、関係者の皆様もおいでいただいておりますので、この御殿場市の教育の会議というものを生で感じていただいて持ち帰っていただければありがたいですし、多くの方に出席いただいたことは非常に意義深いことだなと思っておりますので、よろしく願いいたします。

話は変わりますが、昨日午後6時解禁ということで、御殿場市が東京オリンピック2020自転車競技の開催会場ということで、本庁の入り口に啓発ポスターや幕等を出していますが、正式に競技会場に決定したということで、これは教育に関しても重要なことでもあります。やっぱり子ども達が郷土を誇りに思うという一つにおいて、自分が生まれた町、自分が育った町、自分が住んでいる町にオリンピック競技が来るということは自慢できることで、東京オリンピックという中での御殿場市開催ですからこれは大いに活用すべきことではないかなと思っております。

特に、中学生や高校生といった大きなお子さんについては、実際にボランティア等にも協力いただけるような体制を取れるように、もちろん安全第一で配慮しながらやっていきたいとは思っております。いずれにしてもこういった機会というのは、オリンピックは4年に一度ですが、また日本でいつオリンピックがやるか分からないですし、実際にその時に御殿場市で競技が行われるかどうかは二度とないかもしれないと考えた場合に、我々にとっても一生に一度のオリンピックでしょうし、子ども達にとってもこれ以上ない貴重な経験になると思いますので、まず我々大人が市民一体感を持ってオリンピックを成功させるというのが第一ですが、そのためには一人ひとりが自転車競技というのを深く理解すると同時にやっぱり楽しまないで長続きしませんので、実際に理解して経験や体験をして、楽しみを持って子ども達にも教育の一つとして提供していくというのが本当に大事だと思っておりますので、またその点もご協力いただければとありがたいと思っております。

さらに話が変わってしまいますが、熱中症に関して当市としても教育委員会としても教育長中心に色んな配慮をしているところです。至らない点があるかもしれませんが、ルールに則ってやっている部分と各自治区においても運動会やお祭りなど、こちらの注意喚起の中で危機管理課も含めて推進しているところでありますので、事故のないように最善の努力を尽くしてまいりますので、もしお気づきの点がありましたらお伝えいただければと思っております。

いずれにしても、今日は多くの傍聴の皆様がこれだけ来ていただけるということは、当市における教育に対する思いであったり、関心があったりする証だと思います。今日は教育長および教育委員の皆様、よろしく願いいたします。有意義な会として、皆様と良い時間になるように努力していきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

教育総務課長

---

ありがとうございました。続きまして、教育長よりご挨拶をお願い申し上げます。

### 3 教育長挨拶

---

教育長

こんにちは。

第1回目の総合教育会議ですので、よろしくお願いいたします。

猛暑の夏でありますけども、毎年この夏休み前には校長先生方に戦争と平和の話をしてもらって、命の大切さであるとか生きていることの喜びであるとか平和の大切さを伝えてもらっているわけですが、そんな中で8月7日火曜日に市内の中学校の生徒が亡くなったというお知らせが入りまして、本日の通夜と明日の告別式という大変切なく哀しい報告もしなくてはなりません。只々ご冥福を祈るばかりであります。

挨拶と兼ねまして、話題の提供をさせてもらいたいと思いますが、7月以来の異常気象続きの中で全国各地で起きている災害に目が離せないわけですが、数年前の9月の猛暑によって、運動会や体育大会が非常事態の中で実施されたことを記憶に残している方が多いんじゃないかと思います。まさにそれ以上かなという気がするんですが、今年の夏で小学校のプールの開放日に水温が高すぎてプール使用ができなかったという本市でおそらく始まって以来だろうと思いますね。寒くて冷たくてプールが使えないということは頻繁にあったわけですが、水温が高すぎるが故にプールが使えなかったというのは今回が初めてだった気がします。

そんな状況ですので、新聞報道によりますが、夏休み明けの授業再開の時期を検討しろと文科省の方から通知が届いているようです。まだ本市の方には届いてませんが、県教委の方に届いている感じです。異常気象として猛暑が災害レベルと指摘されていまして、それ以降、国も教室のエアコン設置にも言及いたしましたし、エアコン設置率は静岡県はかなり低いんですが、その中でも緊急対応するというニュースが各市町の方から流れてきています。御殿場市に限って言えば、30度を超えるというのは大変珍しかったですね。ですから、高冷地や高原地というイメージが御殿場市にあったんですが、今は30度以下の日を数える方が早いという状況に陥っております。こうした猛暑の中に、中学生は陸上では県大会から全国大会へ出る生徒もいますし、全国大会は8月19日だったと思いますが、岡山の方で開かれます。こういう活躍をしておりますし、陸上競技会の競技につきましては中体連の県大会に本市から15チーム出場していましたので、これも駿東地区2市3町の中ではかなりの高い比率の出場だと思っています。ですから、中学生あたりあるいは小学生が活躍するというと地域の方たちもやはりそれに巻き込まれる形で元気をもらうのかなという気がいたします。もう一つ言うと、わたしの主張コンクールにつきましても、御殿場の代表が県の大会に出場しております。なので、こういう活動の対応、なおかつ秋口にかけては芸術の

部分で活躍が期待されるというところにいます。

違う話になりますが、東京都世田谷区の総合教育会議に出向く機会がありました。かなり大きな広報を打ち出しまして、全国各地から来られる状況にしておりましたが、2部構成でした。1部は教育推進会議、2部は総合教育会議だったんですが、1部の方の教育推進会議は幼児教育を取り上げていました。ですから、傍聴者の皆様で多かったのは女性の方々でした。保護者の皆様かなと思ったんですが、幼児教育に関わる関心の高さを見させてもらいました。総合教育会議については、これと同じパターンでやりますが、区長は国会議員をやられた方で、その区長さんと教育長、教育委員の皆様こういう対応をするという会議を見させてもらう機会となりました。

これに出向いた理由としては、市議会で一般質問にもいただいていたんですが、色々な形で御殿場市の教育を先に進めてもらいたいという質問の中で、例えば子育てフォーラムをやってほしいであるとかコミュニティスクールはどうなっていますかといった質問を受けて、答弁をしているわけですが、そのあたりを上手く組み込んだ総合教育会議が出来たならば、御殿場市のこの会議も変わっていくかなというところもありまして、企画運営の部分からも勉強させてもらいました。またどこかに反映させてもらいたいと思います。ちなみに世田谷区は戦後に図書館法が出来てから、図書館を一番最初に作った地区ではないかなと思いますが、そんな先取りの地区でありました。

今日の話題に入りますが、教職員の多忙化の解消については色々と策を講じておりますが、今年は学校閉庁日を3日間設定しました。明日からの連続5日間ぐらいは先生方の休みが取れるという方向で休みを促しましたので、それについては教育委員会でサポートして何とか対応ができるような形でシフトを組んでおりますので、先生方にも家庭サービスができるような手だての一つだと思っております。いずれにしても、学校の日常的な姿を見ていると、24時間営業の総合病院かなというイメージで捉えております。24時間営業の総合病院というのは、いつでも誰でもどこでも見ることができ、しかも学校の場合は一人の人間が仕事のキャパシティを逸脱して全てを見なければいけないという状況を改善しなければいけないなど。ですから、抜本的に考えますと、ここを念押しでいいますが、学校で教職員が担うべき授業、学校でやるんだけども教職員以外が担うべき仕事、学校外が担うべき仕事というこの3つは区分けしないと、おそらく抜本的な改革が難しいだろうと思います。今やっていることは、小手先なことしかできないので、抜本的な改革を行うにはそのあたりから踏み込んでいかなければならないのかなと思っております。いずれにしても、御殿場市では季節を問わずに色んな形で、地元の新聞に話題が取り上げられている地域ですので、夢創造事業だけでなく、学校独自の色んな事業をやってもらっているということが一つの特徴かなと思っております。共通するのは、子ども達が元気よく地域の方たちに挨拶できるということは共通しておりますので、そういうものを含めて、我が御殿場市の教育の良さが浸透して行って、安心して生活できるような環境を何とか整備していきたい

いというのが、教育委員会としての思いであります。

今日は色々な話題が提供されると思いますので、ぜひ忌憚のないご意見が交わされる時間だろうと思いますので、教育委員の皆様には色々な思いを発信していただければなと思います。

以上、挨拶とさせていただきます。よろしくお願いいたします。

教育総務課長

---

教育長ありがとうございました。

## 4 協議事項

### (1) 学校の多忙化～教員の多忙化、子どもの学校生活の余裕のなさについて

---

教育総務課長

本日のテーマは、(1) 学校の多忙化～教員の多忙化、子どもの学校生活の余裕のなさについて、(2) 子どもにとっての安心・安全な環境についての2点となります。

ここから先につきましては、市長より協議事項の内容につきましてご発言いただき、市長の進行でお願いしたいと思います。

それではよろしくお願いたします。

市長

それでは、私から進めさせていただきますが、着座にて失礼させていただきます。

協議事項として、先ほど挨拶でもお話をさせていただきましたが、教員の多忙化と子ども達も学校生活に余裕がないのではないかと。というのは、たまたま私の子どもも3人小学生なんですけど、時々お昼休みが無かったということを知ることだってあって、英語が入ってくると本格的にお昼休みが無い日が出てしまうんじゃないかと危惧しているところなんです。本当にそうなるかどうかは別として、実際にそのぐらい余裕がないので、先生方はなおさら余裕がないということですよ。先生は少なくとも子ども達を見なければいけないことに加えて、授業や評価、市教委や県教委への提出、部活動等で土曜日や日曜日にも出なければいけないという、身体を休める時間がなく、気を休める時間もないことになってしまう。先生が本来やるべきこと、先生しかできないこと、先生だからこそやってほしいことに集中してできているのか不安になってしまいます。これを物理的に解決するには先生がやらなくてもいいことを整理する必要があります。私は以前病院に勤めていましたが、例えば、お医者さんがすべきこと、お医者さんじゃなくてもいいこと、看護師さんがすべきこと、看護師さんじゃなくてもいいこと、これらのほとんどは書類ですよ。それで病院関係はどうなったかという、お医者さんの代わりに医療事務を配置して、それは学校でも同じことが言えて、そういうことをやっていかなければいけない。県ではそこまでやれないよとなると、教育に熱心な市町は子どもたちのためだったらということでお金を回すというのが現状であって、これ以上プラスしてできるかという限られた財源の中でもっとも人を入れるということは慎重にならざるを得ない状況にあるというのは事実だと思います。その中でも、教育委員および教育部のプッシュもあって、いつのまにか



膨大に膨らんでいる予算になっていますが、これはある意味、御殿場市の予算を公表するにあたっては誇り高い部分だと思えますが、そういうことだと思います。

さらには、元々子ども達の教育がどこにあるのかという順番を間違えてはいけないと思えます。特に、学校は何のためにあるのかというところで、義務教育の中で身に付けてほしい一定の学力をつけるというのが本来の使命であって、何でもかんでも学校かという私はそうではないと思っています。一番には家庭があって、二番には地域があって、三番に学校がある。その役割分担として、学校以外のことを学校に押し付けていないかと思うんですね。だからこそ御殿場市で掲げた子ども条例というのは全てが学校ではなくて、市民全体が一体感をもって社会総がかりで子ども達を見ていくんだというところに思いがあるんですね。ここで改めて、学校に押し付けていないかということを見直す時になっているのではないかなと私は感じております。

その中で私が思っていることは、土曜日の午前中って子どもたちは何をしているのか、自分が小さい時はどうだったかなと思うと毎週土曜日は学校に行っていて、いつの間にか学校が無くなったのかなと感じております。これらがすぐに先生の多忙感や子ども達の余裕のなさに効果があるのかというところではないと思えます。ただ、考える余地はあるんじゃないかと。今日、私がすごく楽しみにきたのは、教育委員の皆さんがどういう風にその点を考えるかなというところで、もちろん現場で働いている先生方自身がどういう風に考えるのかも非常に興味があります。例えば、そうなったとしたって簡単にできることではないことは百も承知であって、当然部活の問題であったり中体連であったりといった時にどういう扱いにするのかなと。昔、中体連に出た生徒は出席扱いだったような気がしたんですね。だから、勝てば勝つほど休めるというか、もちろんちゃんと補習していたと思いますが、そういうことも含めて御殿場市だけでやるという訳にはいかないですから、他の市町や県の教育委員会との兼ね合いもありますので、提言をしていくということも大事なかなと思えます。これで英語が入ってきた時に、もちろん毎週土曜日やる必要は無いでしょう。子ども達のことを考えると毎週土曜日やってもいいかなと私個人的には思っています。そういうことも検討する一つの事柄じゃないかなと思えますので、どちらかといういつも私が聞かれる立場ですけど、今日はむしろ教育委員の皆様のお考えをお聞かせいただければと思います。

今回、教育長に英断していただいたものとして、先生たちにまとまった休暇を取ってもらうというのは本当に大事なことで、あくまでも一つの例として土曜日をやるとするとその辺りも意外とまとまって休みが取るのが余裕ができるのかなと思えます。さらに連動して、部活もあえて出ることが無くなっていくのかなと。働き方改革の中で、先生方にメリハリのある環境を作ることが、最終的に子ども達の健やかな成長につながるというところになるんじゃないかなと思えます。

前置きが長くなりましたが、これらを踏まえて、もちろん私に対する意見でも結構

ですので、教育委員の皆様のお話を聞けたらよろしいかなと思います。

佐藤朋裕委員

---

冒頭において、市長におかれましては、教育に大変熱心で前向きでおられること、また教育委員の意見をご理解していただけるということで、大変嬉しく思います。

今回の協議事項の一つとして、教師の働き方改革ということで、本当に大きな内容となっております、期待しているところだと思います。学校現場の現実、長時間労働や深刻となった教師の多忙化というもので、教育委員会でも話題になっているところではあります。

市長もおっしゃられました、週6日制の復帰といえばこれも報道されているところですが、教員の人員不足や本来の業務と付随業務、そして雑務など多岐に渡ってやっておられることが多忙の要因と聞いておる訳ですが、現時点で多忙化の解消が解決できないところに加えて、土曜日の授業化ということになると、個人的には子どもにも負担がかかり、一層の多忙化を助長するのではないかという気がいたします。一週間の教師の労働時間を長くすることによって、仕事の負荷が当然加わり、過労を招くことになると思います。子どもの安全、安心も大事だと思いますが、同時に教師の安全、安心も重要だと思いますので、子どもを脅かすような結果になるのではないかと思います。

一般的に土曜日、日曜日というのは大人も子どもも休日で大切な時間かと思っております。保護者もこの休日が大切な時間だと思いますので、私は現行通り、5日制を維持することが良いかと考えます。市長も考える余地があるのではないかなということで、それこそ学校現場の話聞いて、土曜日があることで業務量が緩和されるということであれば必要かもしれませんが、少なからず負荷がかかるのではないかなと思います。

私の意見に関して、市長はどうお考えになりますか。

市長

---

あくまでも提案という形だったので、色々な考え方があるでしょうし、最終的には現場で働いている先生方がどういう思いでやられているかというのが一番重要になるとは思いますが、ただ幼い時を思い出して土曜日毎週行ってたっけな、半日で帰ってきて結構楽しかったな。逆に土曜日の夕方から夜にかけての幸せ感といいますか、もちろん今は子ども達にとっては金曜日が幸せかもしれないですけど、ただ昔と違って現在の子ども達は塾であったりとか習い事が多くなったりとかという意味においては、正直に言って日曜日は重要な時間であるかなとそれは理解できますが、決して決めつけてるわけではなくて、先生方がシステムが変わることによって少しでも

多忙化が減少できるんだったら、大事なのは月曜から金曜で土日が休めればいいんですけど、その辺がどうなのかなというところが一番重要だと思いますので、決して佐藤委員の話が反対とかそういうことではないと思いますので、現実に沿って、やっていくことが大事かなと思います。

よろしいでしょうか。それでは、勝又英和委員お願いいたします。

勝又英和委員

---

よろしくお願いたします。

今の土曜日のお話で、自分の個人的な考えとして、まず自分が子どもの頃どうだったかなと思いたしますと、土曜日は給食が無かったのでちょっと寂しいなという思いもありましたが、やはり午前中で終わるというのはすごく楽しみで、一週間の中で土曜日が自分としては一番楽しみな曜日でした。

中学校になると、逆に部活動が半日もやらなきゃならないという非常につらいところがありまして、できれば土曜日は来てもらいたくなかったなというのが、中学の時の感覚です。

週5日制になりまして、ゆとり教育の是非に関しては別として、自分としては土曜日の復活は有りではないかなと考えています。

これは、一つは土曜日にある程度授業を振ることによって、平日の授業を減らせる。それによって、逆に教職員が拘束される時間がその分だけ短くなるのではないかなと考えます。そうすることによって、全体的に教職員の負担も減らせるという見方も可能ではないかなと考えておりますので、自分としては土曜日の授業復活というのはどちらかという賛成でありがたいところだと思っています。

それともう一つ、昔と違って、子ども達の居場所という問題なんですけども、先ほど市長からもお話があったように午前中で出て昼から起きだして、さあ活動しようとなった時に、毎週生活態度が乱れるとかそういうことではないと思いますが、子ども達が学校に行かなかった時に、じゃあ何をしているかというのが一番の問題になると思うんですね。それにはやはり子どもの居場所というのが非常に重要な問題になってくると思います。今の地域性とか社会性とか考えますと、おいそれと簡単に表へ出て遊びまわるといのもなかなかちょっと難しい問題でしょうし、やはり学校を離れても学習塾などもありますので、一概にフリーの日が二日間あるというものが本当に良いものなのかどうかを検討する余地もあるんじゃないかなと個人的には考えております。

市長

私も給食は必要ないと思うんですよね。そこまでやると、また負担になってしまうので、そうすると逆に充実するのではないかなと。休む時間を大切にするのかなと思います。ありがとうございました。

それでは、芹澤えつ子委員お願いいたします。

芹澤えつ子委員

土曜日の半日登校という件ですけれども、私には幼小中の子どもがいますが、上の子二人に関しては、既にスポーツで土曜日試合ですとか活動しているので、例えば御殿場市だけ土曜日半日となりますと他の市町チームと試合を組むといったことも難しくなってくるのかなというところがあります。

また、普段の子ども達なんですけれども、市長のお子さんはどのぐらい習い事をやっていますか。

市長

結構やっていますね。

芹澤えつ子委員

そうですね。私の子どもも含めて、子どもの友人と話していてもやっぱり一つ二つ三つぐらい習い事をされている子どもが多いのかなと感じます。また小学生は4年生ぐらいになると、週3日から多いと週4日ぐらい6時間の授業となるため、下校時刻が夕方4時ぐらいになります。私の住まいがちょうど学区の境になる場所ですから、子ども達は夕方5時ちょっと前ぐらいに帰宅してきます。私の子どもの通う学校では、ふれあいの日といって毎週水曜日に特別日課があって早く下校してきますが、夕方5時には帰宅しましょうという放送が流れるぐらいですので、子どもたちは遊べないです。親は早く帰る水曜日に習い事を入れるという方もいらっしゃるって、子ども達もがっかりしたような顔をして、今日は約束できなかったという日もあります。

また中学校のお母さんと話しておりますと、週2日から週3日ぐらいは学習塾に通われていて、この時期は日が長いので夕方6時まで部活動をして、急いで下校して食事して、夜7時30分から夜10時ぐらい学習塾に行って、その後学校の宿題と入浴、それでやっと眠れて、次の日の朝7時には朝練があります。本当に子ども達って日々忙しい時間の使い方をしているのだなと子どもが中学生に上がったのでそういったことを感じます。学校でも道徳や英語といった授業数が増加していることを受けて、課

外授業が減ってきているように感じるんですけども、例えば、私が子どもの頃にはスケート教室ですとかスキー教室が6年生までありましたが、最近では年々縮小や廃止の傾向にあり、私たち親が経験してきたわくわくした体験が減っていることが、残念だなと感じております。

土曜日に登校するとなると、かなりタイトなスケジュールで動いている子ども達にとって、毎週というのは厳しいのかなと親としては感じております。

市長

---

ありがとうございます。ごもったもな部分ですよ。

ただ一つ途中で言われていた、結局何かしらを増やさないと先生や子ども達の多忙化はきつくなってきて、正に家に帰るのは遅いんですよ。それをちょっとでも早くしてあげれば、多少余裕ができるんじゃないかなと。例えば、習い事に行く間に多少の時間があることは大事かなと。何よりも夏休みが8月23日までですよ。毎週土曜日やると確かに大変かもしれませんが、その辺りでコントロールしていくのも一つ手なのかなと思います。そういう意味では、なかなか他に手が無いんじゃないかなと。難しいところですが、時間が無いなら日頃から余裕をもってやって、まとめて休みを取らせてあげたりとか、子ども達にとって夏休みが7月25日から8月23日までとなると、この1週間はかなり大きいんじゃないかなという思いはあります。それもただ休みを分散してあげた方がいいというふうに考えればいいのか。

ただ、これは二つ目の話題にはなるかもしれないですけど、今年は本当に猛暑で、夏休みは本来何のためにあるのかを考えると一つは暑さだと思うんですよ。ここまで暑くなると、暑い時は休ませたほうがいいんじゃないかなと、それも一つあるかなと。その他には、勝又さんがおっしゃったように、子どもの居場所ですよ。これも非常に重要で、居場所を考えたときに土曜日がいいか悪いかということにも、それが意外といい方向に繋がるんじゃないかなと思っているんですけど、最終的に先生も子どもも追い込まれていくのであればこれはやっちゃいけないことだし、その辺を見極めることはすごく大事なことじゃないかなと思います。貴重な意見をありがとうございました。

勝又綾子委員

---

勝又です。よろしくお願いいたします。今、芹澤委員の方からお子さんの話がありましたけれども、私も孫がおりまして、土曜日日曜日をどのように過ごしているかと見てみますと、小学生2名ですが、土曜日はサッカーに行って、遠くの方で教わっていて、そこには両親も時間がある時は一緒に付いて行って、家族でそういう時間を持

っている状況です。日頃は学童保育で、父親の帰りは夜 10 時、夜 11 時という遅い時間となってしまっていて、母親も仕事をしているので、夕飯は夜 7 時過ぎという生活をしていますが、土曜日になると親と一緒に自分の好きなことを楽しめるということで、目を輝かせております。日曜日は、親たちが出来るだけ心掛けていることは、近所のお友達と遊ぶということです。その時は、本当に目を輝かせています。ちょうどお友達と遊びたい時期で、全てに優先されるようでその時はエネルギーも発散されるようで子ども達はまた月曜日から頑張れる力が湧いてくるかなって思います。たまに、私は週に 1 回ぐらい早めにお迎えに行きあげるといのが、週に 1 回あることがありますが、その時も目を輝かせて帰ってきます。それで勉強は普段あまりしないですが、その日はお友達と遊べるということもあって、目の色を変えてその日の宿題を終わらせてきて、自分のやりたいことや夢中になることにあたってはそういうことも率先してできるので子どもって力を持っているんだなと思います。本当に生き生きとしている姿を見ると、子どもにとって一番大事なことはここじゃないかなって思います。やっぱりお稽古ごとに行ったり、色々したりするのは、子どもが好きでやるというのは夢中になってやっていて、サッカーでも私に今日は何点入れたんだと自慢してくれたりするんですけども、夢中になってお友達と遊ぶ、何か自分の好きなことを夢中でやれる時間というのは子どもの時代にしかできないことで、本当にかげがえのない時間で、そのこと抜きにはこれから大人になっていく上で、本当の成長というか人間としての人格づくりだとかやる気だとか学ぶ力だとかそういうところに結びつくのではないかなと、改めて思います。ですので、そういう機会は居場所であり、子どもにとっては非常に貴重な時間であるなと思います。

ただ、やはり子どもの授業時数は増えており、一年生も増えて午後の授業が増えてきたとか、2020年の英語活動が増えたりとか、子ども達が5日間で負担が増えるということは、大変なことだなと感じます。

一方で、この中で一人だけ教育現場にいた者で、10年以上昔ではありますが、教師の多忙化ということについて、自分はそんなに意識したことは無かったですし、子ども達のためと思って夢中でやってきた中で、自分が忙しかった記憶をお話しするのはちょっと勇気がいるのでできないんですけども、でもやっぱり私は女性で家に帰って夕飯の支度をしなければならぬし、子どもにご飯を食べさせて寝かせるということもあったので、私は小学校が多かったですけど遅くまで学校にいるということは、多忙化というと中学校の方がクローズアップされていますが、私は中学校も経験させていただいて、中学校の先生の大変さとして時間が拘束されています。具体的に言うと、有給休暇はほとんど取っていない状況でした。皆さん、有給休暇を取ってゴルフに行くというのは一般企業ではあると聞きますが、それは一切先生方は取っていない。それから、それ以外の夏季休暇や家族休暇もありますが、今度の学校閉庁日で学校に強制的に来られないとしていただくと先生方もお休みを取りやすいかなと

と思いますが、中学校の先生はそういう休暇を取らない、夏休みも冬休みも春休みもほぼ学校に出られているという物理的な時間の拘束がすごかったと思います。特に進路指導で、子ども達の進路の相談をしたり、書類を作ったり、一人ひとりの個票を作ったりされる時というのは会議が終わって、冬の寒い時に帰ろうとすると車の窓ガラスが凍っちゃって、帰れなくてしばらく車を温めないと帰れないという経験もしまして、中学校の先生って本当に大変だなって思いました。

それで、小学校はまた別の大変さじゃないかなと思います。教科の守備範囲が広くて、国語、算数、理科、社会、今度は英語と道徳も入りますし、生活科、総合的な学習とかそういうのが全てあって、それらを本当に子どもたちに質の高い授業を提供しようとする、その時間ももっと欲しいと思っていました。教師の時、私の知り合いのご主人が寝床はこたつとおっしゃっていましたが、家に仕事を持ち帰ってご飯を食べるとちょっと力尽きてちょっとうたた寝して、夜中にまた飛び起きて仕事を取り出して、子どもの成績の処理だとか何かのお便りの原稿を作ったりだとか指導案を作ったりだとか、自分の校務分掌を作成したりとか、そういう日々で多分土日ぐらいいは精根尽き果てるような感じでしたけれども、大方の先生はそういう中で過ごしてらっしゃるんじゃないかなと思います。

その中で、市長さんも先生のことを気にかけてくださって、先生が本当に学習指導に時間を割くことができているのか心配くださっていますが、そのところが一番欲しい時間だと思います。世界と比較した時に、日本の先生はうんと低いようで、外国の先生方は自分の授業に満足しているという数値が非常に高いですよ。そのあたりは、やっぱり先生方の多忙化の中でもっと自分はこういうレベルの授業をしたいんだけどもというところが現実かもしれませぬ。だから私自身も昼休みも本当に無くなって、先生になりたての頃は子ども達よりも給食食べるのが遅くてこれじゃだめだと思ったんですけど、何年か経つうちに誰よりも早く給食を食べて宿題の点検したり、日記に返事を書いたり、調査の回答したりとゆっくり休憩を取るということはなかったと思います。先ほど市長のお子様は昼休みがなかったというのは何か委員会や行事の準備で何かをしたとかということかもしれませぬ。そういうことを言わないと何かできないという学校の中の現実というのはあるのかな。私は、学校の中でも子どもにはもっと遊ばせてあげたいと思います。私はそんなに齷齪して、仕事をしてきたんですけども、一番自分を慕ってくれて別れを泣いて惜しんでくれたのは一番若いときだったんですね。それは子どもと夢中になって遊んでたんです。その時は、子どものことは手に取るように分かったし、それを授業の中で活かすことができたし、未熟で色んなことができななかったけれども、子どもが慕ってくれて私から何か学び取ろうとしてくれました。私は歳を取って一生懸命その穴埋めをしたくて、日記指導など色々したんですが、子どもと肌で触れあって遊んだりコミュニケーションを取ったりする時間というのは、それ以上に勝るものだったんだと今になって思います。子どもは先

生に認めてもらいたいと思っているし、自分の頑張ったところやいいところを見ても  
らいたいと思っているので、一人ひとりに向き合って子ども達が安心して勉強に励め  
るような環境や時間を先生方に作ってあげること、そして授業の研究時間をしっかり  
保障してあげることが子ども達の幸せになる道かなと思います。

話が長くなってしまって申し訳ないですが、土曜日の授業については教育長も冒頭  
でおっしゃっていましたが、やはりその辺りのことがしっかりと先生達の仕事を仕分  
けして先生がやるべき仕事に専念できて、ここは事務補助の方だとか支援員の方だ  
とか地域の応援隊だとか仕分けの中で保障ができた上でとのことだと思いますので、そ  
こができない限りは先生方が大変なのかな。子ども達にとって、幸せな方向に行くに  
はその辺りをしっかり保障してからかなというように思います。

市長

---

貴重な経験のお話までいただきまして、ありがとうございます。今おっしゃられた  
通り、いくつもうなずくことがあったんですけども、子ども達が夢中になってやっ  
ているような時間を壊してしまうことが良くないと思うんですよね。芹澤委員が先ほ  
どおっしゃられた通り、御殿場市だけでやると悲劇が生まれるので、今日はとりあ  
えずはこういう話をどういう可能性があるのかなということの中で、良いことであれば、  
御殿場や北駿から県の方に話を持っていくというのも大事かなと思います。

いずれにしても、子ども達がやるべきことはやる、勉強する時は勉強する。それで  
いいと思うんです。それにしても、今考えると朝早く学校に行って何をしていたか  
という野球をやっていました。それで朝の会をやる。それで昼になったら給食を急  
いで食べて野球をやる。夕方は、怒られるまで野球をやるという感じでした。そう  
いう部分を考えると、今回はテーマを考えていく中で、学校の居場所の在り方や大人の  
都合で子どもの居場所を作っているのかということを考えなきゃいけないと思うん  
です。先ほど勝又委員がおっしゃられた通り、夢中になって友達と遊ぶことってや  
っぱりそれぐらいが楽しくて、そういう時間を作ってあげる。それが本来の子どもの  
居場所であって、これは前々から言っていてなかなか難しいですが、安心安全の環境  
を考えた場合に、本来であれば学童が今のような形態がいいかということと本当は私は  
そうじゃないと思います。本当は何のために公民館があるんだというのは言いたいで  
すし、公民館が新しくできるときには、地域コミュニティの核として使ってもらいた  
いというのは、本当はお年寄りが当然おじいちゃんおばあちゃんが使っていく中で、  
子ども達がそこに入っていければ一番良い。学童は、もちろん学校のそばにあるので、  
安心安全第一でやっているのだから登下校を考えるのであれば、自分の区のそういうもの  
も活用してもらいたいなと本当は思ってますし、その中で切磋琢磨して、宿題ま  
ずいなくなって気付くのも本人だし、気づかせるのも周りだとかも含めて、トータルに考えな



いと、ただ土曜日にやるやらないという話ではなくって、そういうことも含めて考えるという時が本当に来ているんじゃないかな。ただ機械的に授業が増えて削るところが無いから、じゃあしょうがない昼休みを10分20分を削ろうかということだと、ますますギスギスして教え込めばいいというのはまずいかな。そういうことも含めての土曜日ということですので、その辺もご認識いただければありがたいなと思います。

勝又委員、貴重なご意見ありがとうございます。生徒になりたかったなと思いますね。

大西孝明委員

私は今、区長もやっています、区長3年目であるんですけども、1年目は色々分からないことが多かったですが、子ども達に対する苦情とかが見えてきたのが2年目でした。昨年の4月から5月にかけて、子ども達に余裕がないことが起因しているのか分からないですが、通学路の件で、朝登校する時は団体行動でいいわけですけど、帰りは開放的になってくると個別で帰宅する中で、あぜ道や田畑で何かしたり悪さをしたりという子ども達がいるという話が一時期ありまして、これについても色々なざそういうことをするのか話を聞いてはいたんですが、これはストレス発散で、大人でもストレスが溜まってくればどこかで発散してくると思うんですけども、そのストレスの発散の仕方が、石を投げたりとかゴミを散らかしたりとかこういう形で見えてくると、これはやっぱり問題ですねと。それを、子ども達のストレスを発散する公園でボール遊びとか自転車遊びをしていいかという、それやっちゃだめ、あれやっちゃだめ、これやっちゃだめ。では、一体子どもっていつどこで何をやっていいのかというときに、私たちの地域ではあまり遊ぶところがなくて、住宅地というところになりますから、住宅地の生活道路の所で遊ぶとなると自転車で走り回ったりすると子ども達と車との出会い頭に事故が起きる。それで、そういうのがあるとそれはやっちゃだめだよ、公園で遊べよ、じゃあ公園で何して遊ぶんだというところがあったりして、地域の中での子どもの居場所が、どこで何をすればいいのというのが明確に出ていなくて、禁止事項が多すぎる。なぜ禁止ばかりするの、それは安全のため、それは子どものためなんだということになるんですけど、一体どこがどういう風に子どものためになって、どこが地域のためなんだというのは分かりづらいところがいっぱいあるというのが現状です。地域としてそういうところを少しでも良くしようということで、公園にはボール遊びができるようなネットを張ってボールが飛ばないようにするとか仕組みを作ってルール化しますが、やはり限度がある。野球とかをやろうとするとそれなりのボールは飛んで行ってしまうという話がありまして、ただ子ども達は自由に遊ぶということからアイデアを生み出してくるということで、自分が仕事をしているときは色々なアイデアを出すというのは遊びから出るというのが多いということか

ら、創意工夫というのがありました。その創意工夫を見出すには、遊びを知らなければ生み出せない。楽をするためにはどうすればいいかというような発想からいくと、子ども達は自由な発想で色々なことをするということに関しては、あまり詰め込みになると上手く使いこなせないというところがありまして、私は休みの時には山とか川とかに行って昆虫採集だったりとか、私の家の近くには伊勢神宮があったものですから、グループで山登りをしたり、夕方になってやっと帰るというイメージで色々なことを自然相手にしてできる遊びというのがたくさんあったんですけど、そういう所から色々なアイデアが生み出せるというところがありましたので、今のご時世なかなかそうはいかないと思うんですけども、子どもへのストレスを無くすということも必要なんじゃないかなと思いました。以上です。

市長

ありがとうございます。色々なストレスとか時間的制限とか、詰め込まれるとか追われるようなことになってしまうと、余裕が必要なんじゃないかなと思います。ゆとり教育のゆとりという意味ではなくて、時間的なことであったりとか、心のゆとりであったりとか、好きなことをやらせてあげるとかですね。この間、現場を見てきましたが、神山に公園が新しくできて、あそこはすごく使われているんですけども、学童を新しく幼稚園の方でやっていただいている、あの環境を見たときに、あそこいいなとかあそこ幸せだろうなど。運動場付きの学童という感じで、いいですよ。ああいうのができるといいなと思うんですが、おっしゃられた通り、ストレスの中で特に先生も子どもも追われちゃうと厳しいのかなと思います。特に、高根は森っこクラブがありますよね。あれは、私は御殿場市民のやっている事業の中で一番素晴らしい事業だと思っていて、いつもありがたいなと思っているんですが、ああいう環境がやっぱり大人も楽しんでやれるというのがすごく大事だと思うので、そういった意味ではどこでもキャッチボールができたし、今なかなか車が多くなってとか道路が整備されるとなると結果的には安全を考えた場合に、いつの間にかそういうものを奪っちゃっているということに繋がるのかな。だったらやっぱりのびのびとできるような場所を提供してあげるとというのがすごく大事じゃないかなというように思っています。そういう意味では、土曜日は少し考えていいんじゃないかということでしょうかね。

それでは最後に教育長、教育委員さんの方から色々言っていただきましたけれども。

教育長

各委員の皆様から本音の部分で色々な形で発言してもらって、特に綾子委員からは自分もそういう時代の中で教員をずっとやってきたものですから、多忙感なんてそう

いう発想を持たなかったなと思いながら聞いていたんですが、一つ念押しというか本当に良い機会に色んな意見を言ってもらえたものですから、もう一度念押しで確認しておきたくて、実は学校5日制という言葉で話題に上がっていますが、学校6日制にしようかというところで、もともとはどういうふうに入ったかという、これは学校5日制という言葉から入ったんじゃないです。週休2日制という言葉から入ったんです。先生方だけじゃなしに、日本人が働きすぎるといって、働きすぎをきちんと改善しましょうよといって、土曜日日曜日の週休2日制という言葉が入ってきたときに、困ったのが学校で、半ドンでやっていました。市役所もそうなんです。そして、この土曜日をどうしようかというところから、月に1回、月に2回とだんだん拡充していった、最後には週休2日制に入ったという状況にありまして、言葉は裏返しだもんで、学校5日制という対比するのが週休2日制なんです。もともとは世界から突かれて日本は働きすぎだから変えなさいと、その最たるものが学校現場です。調べたところ、市役所に週休2日制が入って遅れること7年です。学校現場は7年遅れているんです。それでようやく学校が5日制になったんです。それまでは変則でずっとやって、7年かかってようやく市役所と同じようにして土曜日日曜日になったんです。ここだけは忘れないでもらいたいですね。そして、その中で問題は何かという、部活動の問題は多忙化と一緒にクローズアップされていますけれども、部活動は半ドンの時にやっていたんです。土曜日半分やって、日曜日に大きな試合をやるやっていたから、当然私も中学校が長かったので、土曜日日曜日に試合をやるとなると大体、中体連の7月8月が終わるまでは休みは一日もありませんでした。無休でした。無休。それが当たり前のようにして生活していましたから、戦争未亡人という言葉がありました。部活動未亡人という言葉があったぐらいで、教員の奥さんはほとんど旦那さんと一緒に食事を摂ったがないというのが現実だったんです。私も勤めていた時に、夜9時前には電話を入れても自宅にいないから学校に電話をよこせと言った記憶がありますから、そういった生活をしていただと思えます。その時に、何が話題に上がったかという、実は部活動を社会教育に移管するというのがちゃんと出たんです。そして、私が実際に小山町で勤務している時に、小山町に勤務しているけれども私の地元は御殿場西中学校ですから、西中学校の子ども達も婦人会の皆様も指導しました。私はバドミントンも教えたし、バレーも教えたし、地元の方々の指導をしていたんです。自分が勤務していた須走中学校や北郷中学校は、そちらの方に住んでいる先生方が指導すると持分を変えて実際にやったんです。ところが、これが定着しなかったです。結局、社会教育化するのはいかなくって、はっきり言うと失敗だったんです。これが根っこにあって、中学校の方はなかなかそれに踏み込めないまま、ずっと今日まで引っぱられたという、ここだけは忘れないでもらいたいです。社会教育に移管しようということで受け皿を一生懸命作ったんだけど上手くいかなかった。今は、御殿場市は市長さんが言われたとおり、社会総がかりとか市民総がかり

で子ども達をどうしようかと子ども条例を作っただけでなく、実際にそちらの方に踏み込みようとしているわけですから、だとしたら違った形でやってもいいかなと。ただそのところ、すぼんと抜かれちゃって、新聞社の方から取材を受けたことあるんですが、土曜日の授業は賛成ですかと言われたから、私は素直に反対ですと答えました。なぜならば、今のスタッフをそのままにして、学校5日制なのに、ある日突然5日制を6日制にしますから土曜日にも仕事に来てくださいという論法ですが、ありえないじゃないですか。どこの社会で5日間働いている人を6日間同じ給料で働けといわれて分かりましたというところがどこにあるんですか。だから人的配置をきちっとするということが俎上に載せてやるならば、土曜日のことも検討しますと新聞社に答えた気がします。だから、これは色々な問題があるんですが、土曜日に授業を組むことによって子どもの生活は小学校の低学年だったら平日の授業時間の午後に詰め込まなくても土曜日にもっていくことによって緩和されるという昔のような生活ができるということも事実ですし、部活動はこんな時代だもんで、私の方からガイドラインを出して、平日1日休み、土日は1日休みで週2回休めという指示を出しました。そうすると、土曜日に授業入れちゃうと、また日曜日は試合をやらないといけない。ここに整合性が取れなくなっちゃうんですね。だから、それも全部ひっくるめて、部活動が社会教育の方に移管できますよ、受け皿としてそちらの方も並行していきますよということがちゃんと進んでいけばそうだなという検討の余地があると思うんですね。そういう意味では、御殿場式といいますか、これならばできるんじゃないかというもので究極をいえば、子どもが子どもらしい生活をちゃんと保障しないといけないと思っています。やっぱり主人公は誰かという、子どもだろうと思うんですね。だから子どもが生活に余裕がないというなら変えていかなと思うし、そこを間違えちゃうと教員が多忙だからそれはだめですよ、土曜日はだめですよ、日曜日はやりませんよという話ではないだろうと思うんで、私の立場だと社会教育移管という過去にあったことも含めてもう一度丁寧におさらいしていきたいなと思います。以上です。

市長

---

ありがとうございます。今日は皆さんに本音で話していただいて、嬉しいですね。最終的にどういうことかという、なぜこの話題を提案させていただいたかという、正に本音を聞きたいというか、多忙感ってどこにあるんだというところで、お二人の実際に学校で教師を経験されていたお話もそうですし、私なんかも首長の立場で、ややもすると、市民の皆さんから市長は週休2日で土日休みでいいなんて言われて、土日こそ忙しいんですけどって言いたくなるんですが、それは置いておいて、多忙感って何かっていうのはあると思うんですね。その先生方にとって、例えば、部活動命で部活を指導しているときが一番生き生きするんだという先生もいれば、実際に

は本当は卓球教えたいんだけど、人が溢れちゃっているから剣道やらなきゃしょうがないとか全然自分ができないことをやらされている先生も多分県内であると思うんですよね。そういうことも考えていかなきゃいけないし、本当に部活全部やらなきゃいけないのかというのもそれは違うような気が私なんかはするんですよね。というのは、エスパルスにしたって何にしたってクラブチームがそろそろ子どものサッカーを教えてくれるし、逆にそういうチームに入っちゃったから部活は出られないよという子どももいるし、その辺のバランスをそろそろ考える時期ではあるのかなと。野球もそうですよね。野球はチームが少ないんですよ。親も合わせて7チームしかないですからね。実は、今1チーム増えたというか戻ったので、私は非常に嬉しいなと思っています。北郷が一回合体で出たんですが、今年は単独で出たので良かったななんて思いながら、そういうことを考えた時にももちろん昔だと逆にサッカーや野球ばかりということもあったかもしれないですが、今は様々な競技が努力をして底辺を広げるために、子どものうちからバドミントンにしたって何にしたってやっているんで、部活の種類も増えているというのもあると思うんですけれども、逆に人気のあった部活が衰退してしまったというのも言えるのかもしれませんが、いずれにしても多方面から見ていかないと、もちろん時間が無くなったから土曜日を増やせばいいんじゃないかという問題ではないと思うんですよね。まさに今、教育長がおっしゃった通り、スタートを考えていった場合にそもそもなぜ5日にしたのかということを考えなければいけないですし、じゃあ色んな効果はどうだったんだろうかという検証もした中で、これから先も6日にするのかどうかというのを判断しなければならないでしょうし、部活のこともあったり、本当に子どものことを考えて子どもの居場所を作っているのかということだと思うんですよね。そこも考えなきゃいけない。当然学童に関しては、御殿場市はこれは胸を張って言えますけど、県下でピカイチだと思います。意地でも、学童と保育園は、なかなか年によっては4月に多少溢れてしまうこともあるんですけれども、どんなことがあっても子ども達が居場所がなくなるということが無いように、ただそれに対して、市がまたは教育委員会がやることに対して、一番最初に言ったそれもどっかで全部そこに任せばいいんじゃないかと思っているところがあるとするならば、それはやはり改善しないといくら予算があってもいくら人がいても、どんどんきつくなるだけであって、その辺はやっぱり考えていかなきゃならない。

子ども達がどこにいるのが一番幸せなのか、その時々によって違うと思うんですね。子ども達同士で遊ぶときでも幸せ、でも最後はやっぱり帰って家でご飯を食べて、家族でお話をして、今日はあれがあったよこれがあったよ、明日はサッカー行きたいからわくわくしながら寝たりとか、明日は土日だから多少好きなテレビを怒られながらも見たいよとそういうところも含めて、正に教育長に言っていたかかった一言は、誰のための教育なのか、そもそも誰のための学校なのか。奇しくも、あえて教育フォーラムで言わせてもらったのは、評価って誰がするのかということです。先生の

評価はもちろん同僚からの評価も大事だと思うし、親御さんからの評価もあると思うし、でも誰のために学校の先生が一番信頼してもらいたいのかはやっぱり子どもだと思うんですね。それを忘れちゃうと、先生方も多忙化という言葉で逃げちゃう。マスコミも多忙化だけをクローズアップして、全部多忙化多忙化。じゃあ時間を増やしましょうか、どうしましょうかと本来の問題がちょっとずれちゃうということもあって、今日はあえて土曜日を出させていただいたというのは、正に教育長の言っていた言葉を引き出したかったとか誰のための教育なんだと、土曜日をやるのは誰のためにやるのか。もちろん先生の多忙化が結果的にあるかもしれませんが、本来は子どもがということを考えないといけないんじゃないかなと思います。

## (2) 子どもにとっての安心・安全な環境について

---

市長

それでは、時間の関係もありまして、2点目にいかせていただきたいと思います。今のお話の中で通ずるものがあつたとは思いますが、子どもにとっての安心安全な環境についてということで、大西委員からお願いします。

大西孝明委員

それでは、安心安全ということで、今富士見原区の新興住宅地は会社勤めの人たちがほとんどいるという中で、昼間は人がいない。夜は遅くにならないとお父さんお母さんが帰ってこないという話が蔓延してまして、この中で年に数件、小学生や中学生の方が被害に遭っていて、変態とか痴漢とかそういうのが出没したりとか、そこで目撃者がいないということから、安心安全というのを一体どこまで安心とすればいいのか。つい最近ですが、6月12日に空き巣被害が一日で6件、時間帯は夕方4時から7時の間に発生いたしまして、未遂が4件。その後、神山平の方に移ったみたいで、そこでもまた5件という集団空き巣が発生したようです。その中で、話を聞いてみるとアイスピックかそういうもので、窓ガラスに穴を開けて割ったようなんですが、場所によっては二重になっているものですから、開かないはずの家がたまたま開いてしまった家が2件ありまして、未遂の件では家族の方が中にいて、居間にいて、裏口から侵入してきて出くわしたというケースがあつたんですけども、その時には男性二人で入つたということで大人の人がいたものだから、逃げたということだつたんですけども、それが子ども達だけで留守番しているケースが非常に多くて、大体夕方4時ぐらいから7時ぐらいまでそういう時間になっています。あるお母さん方にお話を聞くと、家には中学生の女の子1人であるので非常に心配だという話がありまして、そういう時に入ってくるのはどこの家が空いているのか、留守なのか分かるようなんですね。多分調べてきているでしょうけど、富士見原区自体の環境的にいうと、ふれあいの小道というところがあるんですが、そこを歩いていくと帰宅している家かどうかが分かってしまう。今、雨戸を設置していない家があつて、雨戸を閉めずにいる家は明りが付いていなければいけない、ましてや車が無ければまったくいけないというのが常態化しているわけですから、それはいつでも分かるようです。犯人自体もすぐに入るわけではなくて、常態化しているわけですから、調査してからの犯行だと思つたという話もしていました。警察からの話も聞きましたが、そういう安全安心というところで、何をもって安全安心なのかというは、それは地域の住民の目ですねという話でし

たが、その地域の住民の目がない状態で、どういう形で安心安全を守らなければいけないのかと考えたときに、行き着くところはやはり防犯カメラしかないということから、防犯カメラを付けるということで、まちづくり委員会の費用を使わせてもらって設置して稼働しはじめたところです。

そういうのがあって、安全安心なのかということ、次は個人情報保護法云々の話がクローズアップされてきて、実際に自宅の入り口が写っているからここはだめだとか、ここは洗濯物が写るからだめだとか、そうすると道路の真ん中しかだめじゃないかと、道路しか映すことできないんですかという話もありまして、そういうのを議論していく中で、やはり各家庭で防犯カメラを付けてもらった方がいいんじゃないかと。自分の家の裏口にも付けてもらうという話も上がりますが、安心安全であるべき地域が、治安の悪い地域をレッテルを貼られると困ると。今度は入ってくる人が来なくなってくるので、そうすると町自体が衰退していく。この2020年までに関東自動車が大移動されるということで、それで行くと、富士見原とか神山平とかあの辺りに住んでいる人がターゲットになるみたいで、人が減る。そうなった時に、新しい人に入ってきてもらわないといけない。そういう時に街づくりとしては、どこをどのような対策をしていけば、治安の悪い地域だというレッテルを貼られずにしないといけない。

子ども達が犠牲者になるのが、親御さん達の心配の種でして、仕事もおちおちしていられないし、早く帰らないといけないということが一時期蔓延しまして、それ以降の発生していないんですけれども、警察の方からは再犯の可能性があると言われていて、皆様方が日々心配事が多すぎて仕事もおちおちできないということを早く解消しなければならぬというのは地域の問題点としてあります。

ですから、今夏休みに入ってきて、特に子ども達だけでという地域がほとんど多いですよ。だから子ども達だけで安全な地域というのはどうすればいいんだろうというところが大きな課題となっております。以上です。

市長

---

ありがとうございます。本当に重要な問題であって、防犯カメラの件は市としてもご相談いただいて、対応していこうということにはなっていると思いますが、大西委員がおっしゃった通り、市が公に付けるとなると、どうしても個人情報の絡みがかっついて回るということもあって、地域でやってもらうというのに対して市が支援するというのだとは思いますが、ある程度の備えて大事だと思うんですよ。見せつけるというか、地域の住民がそういう体制なんだけど、これは全ての地域が取れるものではないので、そういう時にはある程度そういうもので見張っているんだぞというのは大事だと思うので、その中で特に空き巣や犯罪から子どもを守るというのは、事故とかよりも、もっともっと起こり得てしまう人災だと思うので、そこは市として



も個人情報保護法があるとはいっても、やっていかなければならないところかなと思います。ありがとうございました。

大西孝明委員

---

今、車でドライブレコーダーの必要性が高い状況になっていると思うんですけれども、あれぐらいの金額で、2万円以下ぐらいであっせんしてもらえるようなカメラが普及していただいた方が個人で付けるというところへの普及にもなるかと思うんですけれども。

市長

---

そうですね。ドライブレコーダーはだいぶ安価になってきて、それは数が増えたというところもあると思うんですけど、その辺も逆に技術的なものを使えるんじゃないのかなと思うんですが、これは早急に対応していきたいと思います。

ちなみに、私もですが、防犯カメラを付けますよね。子どもしかいない時間帯があるので、それはやはり大事なことだと思います。

それでは時間もあまり無くなってきましたが、いかがでしょうか。

佐藤朋裕委員

---

子どもの安全安心の環境づくりですが、端的に学校の普通教室のエアコンの設置について、共通認識といいますか、今年の夏の暑さは説明する必要もなく誰もが等しく体験しているところであります。ところが、現在御殿場市内の小中学校で聞くところによると、空調設備を設置されていないと。子どもの健康状態を考慮した場合に、空調設備がやっぱり必要不可欠ではないかな。報道によりますと、文部科学省での4月の調査では公立小中学校の普通教室のエアコン設置で約50%あるけど、静岡県では7.9%だというのも出ております。エアコンの設置が進まない理由は、一つ目は、7月下旬から8月上旬が夏休み期間であるというような理由でありますけど、今年の夏のように、今後は子どもの夏休みが始まる前から猛暑になるかと思います。二つ目は、導入コストが高額だからということのようであります。これも地球温暖化が要因だとは思いますが、これからの残暑も厳しくなるようでございます。

市長さんにしてみると、予算の関係ですから、頭が痛くなるような話かと思いますが、防犯カメラのような安い話でないわけではありますが、近隣の話をしみますと、静岡県内でも静岡市、三島市、富士市、富士宮市、島田市も来年の夏までには小中学校全て導入するという話が出ておるわけで、御殿場市も高原都市だから涼しいからとい

って扇風機や自然の風を窓から入れればいいやというような時代からなくなってきているのではないかなど。あくまでも児童生徒、もちろん幼稚園や保育園にも完備されていないということで、完備されていけば問題ないわけですけども、そういう面で体調管理とか学習環境の改善のためには必要不可欠だと思います。予算の関係ですから、この前の時も言わせていただきましたが、不交付団体で予算の方も厳しいぞというところで、この辺については市長さんから良いお話が受けられるかなと思って期待をしてきたんですけども、いかがでしょうか。

市長

当然、命に係わるような状況になった場合に、それを放っておくことはできないというのは当然のことだと思いますので、ただ今、佐藤委員自らおっしゃっていた通り、例えば御殿場市が全学校にエアコン設置するといくらかかるのかといった場合に、約10億円かかるということで、そのお金をどこから持ってくるのかというのはなかなか厳しいところがあるなというのはありますが、ただ命に代えられないということはありませんので、少なくとも来年度に向けて、教育委員の皆さんとも相談しながら、9月議会でもどなたか議員さんから質問があるんじゃないかなと思っていますが、それでも市として回答が出るんじゃないかなとは思いますが、今日すぐ入れますとは言えないのは、温度の推移は検証しなきゃいけない部分はやっぱりあると思うんですね。というのは、決して高原都市だからとかそういうことではなくて、当然科学的に見なければならぬところもあると思いますし、佐藤委員のおっしゃる通りで、御殿場の標高はちょっと高くて気温は全体的に低いからといったって、今年は異常で30度を下回る日を探す方が難しいぐらい、この御殿場ですら他の市町と何ら変わらない状況であることは間違いなくと思いますので、できるだけできる方向でしっかりと検証していきたいと思います。ただやりますというのだけは、今日は言えないんですけどできるだけいい方向でという回答で、今日のご勘弁いただければありがたいと思います。

佐藤朋裕委員

今日は傍聴席でも議員さんが来ておりますが、ぜひ調査を進めていただいて、期日設定と今年度の補正予算をしてもらって、次年度から順次整備するというか、単年度で10億円じゃ予算が分かりませんが、2年や3年かけてかは知りませんが、ぜひ着手してもらいたいと思います。

皆さんもご存じかもしれませんが、富士市は今回決心して行うわけですけど、エアコンのコストが高いからといって、今年の夏は保冷剤入りのクールネックタオルを授業中に子ども達が集中できるようにしたことがものすごく歓迎されたのを見ました。そんな面で単年度で完備されない場合でも、ぜひ全てがエアコンに頼らなくて

も冷凍庫から保冷剤を取り出して、クールネックタオルを利用する。これであったら、金額も安いわけで、100%できない場合でもそんなところのフォローをしていただければと思います。

ちなみに、今年の1学期の終業式は7月24日でしたでしょうか。エアコンがある教室に集合して、マイク放送でやったという安全の配慮をしたところもあったようですが、御殿場市でそういうのをやられたというのを少し聞きましたが、どうしても暑い場合には一同を体育館に集めてやらなくても、子どもの安全を考えれば、これも一つの案かなという気がしました。以上です。

市長

---

ありがとうございます。いずれにしても、これは重要な問題なので、しっかりと検証して前向きに取り組んでいきたいと思います。それとエアコンばかりだけでなく、御殿場の場合だと扇風機が非常に効果的な部分もありますし、今おっしゃられたように首のタオルは私もたまたまやりましたが、すごいですよね。それだけでも効果があるかなと思いますし、何もしないというのはやっぱりまずいと思いますので、色々なアイデアでしっかりと取り組んでいきたいと思いますので、よろしくお願いします。

ただ正直、これまで不交付団体もそうなんですけど、一番は国からの貸付金みたいなものを返さなければいけないとか色々ありますので、その辺りはスクラップアンドビルドでその時に市民の皆様にもご理解いただきたい。貴重で限られた税金であれやれこれやれと何でも言われてしまうとそれはできないので、やっぱり今回のことは命に関わることですから、当然やらなきゃいけない部分であると思いますので、だからこそ一番効果的なことをしっかりとお金をかけて、知恵を絞ってやることだと思いますので、ご理解いただければありがたいと思います。

それでは、勝又英和委員お願いいたします。

勝又英和委員

---

子どもにとっての安心安全な環境についてということで、先ほどもちょっと子どもの居場所というお話が出ましたけれども、私は二枚橋に住んでおります。学校区は御殿場小学校、御殿場中学校で公民館もすぐ近くにあります。しかし、子ども達が放課後、公民館で遊んでいるというのは見たことはありません。地域がそういう特色なのかもしれませんが、子ども条例行動計画にもありましたように区の行事には積極的に参加していただいております。特に中学生には区の行事のボランティア活動ということで、中学校の校長先生に毎年行事ごとにボランティア依頼書を提出しまして、地元の子供達に区の行事に参加協力をいただいております。そうすることによって、地域の住民との顔合わせといいますか、面識が深まることによって、気楽に声掛けがで

きる。世知辛い世の中になりまして、全然知らない子に声をかけたりして、怪しまれたりすると声をかけた方も疑われたり、声かけられた方も怖がって逃げてしまったりというそんなこともありますけど、幸いにして私のところは通学路に面しているんですけれども、意外と子ども達がおはようございますと朝は声をかけてくれるものですから、こちらからも声をかけやすいという環境にはなっておりますけれども、やはりこの世の中、意外と迂闊に声をかけられないような状態になってしまっています。とはいえ、子ども達が積極的に行事に参加してくれて、顔見知りになれば意外と声掛けなんかも抵抗なくできます。それと、地域の行事に参加することによって、中学生が小学生の面倒を見たりというのがありますので、二枚橋としましてはそういう風な形で子ども達に色々と接する機会を多く設けている区だと思います。以上です。

市長

---

先ほど色々な話が出ている中で、正にその通りだと思うんですよね。コミュニケーションがしっかり取れていれば、安全な部分というのは増えると思いますし、楽しみも増えると思います。そういうことはぜひ公民館やコミセンを使っただけのありがたさだと思います。ただどうしても、学校でもそうでしょうし、公民館やコミセンを利用するにあたって、必ずくっついてきちゃうのが、何かあった時に誰が責任を取るのかというのがあるんですよね。結局そういうところで縛られてしまう。だからといって、誰も責任が無いというわけじゃないので、その辺りをしっかりとしていくことが大事だと思うので、あるものは最大限使ってほしいですし、公民館なんかは正にそういうものに活用されたら素敵だなと思いますので、それも含めてまた二枚橋の活動を、子ども達が行事に出ることによって当然近所に住んでいる子どものコミュニティも更に深まると思いますし、その後が良いんですよね。大人になっても仲が良いとか、逆に大人になっても仲が悪いというのがあるんですけど、そこはちょっと目を瞑るとして、大体は大人になってもお互いが頼りになるという、いざという時に頼りになるんだと思います。貴重な意見をありがとうございました。

それでは、芹澤委員お願いいたします。

芹澤えつ子委員

---

保護者として子どもの安心安全をとということで、やはり親として他人事とは思えず、子ども達を送り出すときに不安を覚えます。御殿場市では子ども条例行動計画を策定していただいて、社会総がかりで子どもを育成する取組をしてくださっております。そういった環境で子育てできることは本当に心強くありがたく感じております。その一つの例としては、子ども達の登下校の姿にあると思うんですけれども、私達親が朝

子どもを送り出したあとに子ども達が向かう集合場所には大抵役員さんですとか近所のお母様方が子どもを迎えて、登校班を見守って送り出してくださっています。そこから先には交通指導員さんですとか見守りの方々が一緒に歩いて、学校までの道のりを見守ってくださっています。校門の前には校長先生を始め、多くの先生方ですとか交番の方と天気の良い日だけでなく、大雨で送っていくときでも嵐の中でも、雪の日でも先生方が出迎えてくださっている姿を見ると本当にありがたく感じております。こういった姿を当たり前ではなくて、地域と学校と保護者の連携を感じます。また学校からの緊急メールも不審者情報だけでなく、以前私の子どもが通う学校では、ちょうど遠足に行った日に嵐になりまして、急に雷が鳴りだして、登山をしていた子どもをすごい心配したんですけれども、割とすぐに学校から全員無事に安全な場所に避難しておりますとか下校時間が多少変わりますという連絡を迅速にいただけたことで、本当に安心して帰宅を待つことができました。交通などでは人の目で助けていただいておりますが、今申し上げた通り、予想が難しい自然災害ですとか下校後の外出についてはまだまだ不安を覚えるところもあるんですけれども、ここ数か月だけでも大阪の地震ですとか西日本豪雨等がありまして、新聞でも報道されておりましたが、ブロック塀の点検や撤去等、すぐにやっていただいたことで安心を覚えました。現在、学校で行われている避難訓練は、火災、地震、不審者対策の訓練が主だと思えるんですけれども、この他にも今後予想される様々な災害ですとか不審者対策を想定して、例えば噴火に対する訓練ですとか登下校中の地震発生を想定した訓練をプラスしていくことで、子ども達自身が自分で自分の身を守る力を高められるように伝えていくことが大人の役割ではないのかなと思います。そのためにも、地域や学校の引き続きのご支援をお願いしたいと思います。

市長

---

ありがとうございます。地震の時もそうでしたけど、やっぱりいち早く対応して親御さんの気持ちを考えることも大事ですし、何よりも子ども達を安全に避難させるということを想定した普段からの先生方の活動というか教育というのが、いざという時に出ているのかなというのが、私としても安心している部分ではあると思いますので、その点は私としてもしっかりとやっていきたいと思っております。ありがとうございました。では、勝又綾子委員、お願いします。

勝又綾子委員

---

私が一番危機感を感じたのが、愛知県豊田市の小学校1年生の男の子が校外学習から帰ってきて、具合が悪くなって死んでしまったという事故が本当にショックでした。

それにつきまして、市長さんや教育長さんのお話を伺いながら、これだけは対策も取っていただけると学校では行事の時には、事前の健康観察だとか私たちがそういう所へ出掛ける時は車で付いていく教員もいまして、途中で具合が悪くなったら車ですぐに病院といったあらゆる方法を考えての対応策というのは、先生の中でも子どもの命を守ることは最重要課題だと思っていますので、そういった意味で現場の中でも子ども達の命を守って、家を出てから学校に来て、そして家庭に充実感を持って元気に帰ってほしいなと思いますので、皆で見守れることは見守り、大人ができることを子ども達のためにやっていけるようになったらいいなと思っています。

市長

---

ありがとうございました。それでは最後に教育長に締めていただいて、会議を締めたいと思います。よろしくお願いします。

教育長

---

子どもの安心安全な生活ということで、いくつか指摘されている中で一つ取り組んだことですが、夏休みに入る前に大きな災害があった中で気になったことがあったので、校長会で変えたことがあるんですね。それは何かというと、7月23日付で保護者宛に出したんですが、学校の外での災害について、地震の発生の時に自宅でどうい対応をしますかという一文を入れました。先ほどの話題の通りなんです。学校からの指導はあるんですが、いるのは子ども達だけであるとか家庭に任されてしまうので、親子を約束事をちゃんと作って守ってもらいたいとしました。予め地域の避難所での家族の連絡先、また連絡が取れない場合はどこに連絡したらよいかこれを確認しておきましょうとわざわざこういう文章を入れたものを、夏休み入る前に子どもに持たせたんですね。これは登下校のみならず、一人になった時という定例教育委員会で大西委員からも話があったことを受けまして、これを盛り込んで検討しましょうよと緊急に入れたことです。ですから、指摘された時に不備がどこにあって、具体的にどこに発信したらどういう風にして動くかということを見て、今回だけは御殿場市独自で動きましたが、基本的には2市3町で歩調を合わせてこうしましょうよという形で学校関係に動くんですが、今回は7月23日に独自で保護者に通知したという例です。

これが一つの例になりますが、思ったり気付いたり、あるいはこういう指摘を受けたときにできることとできないことがあります、すぐにできることは何なのかということですね。長期でもう少し先に行かなきゃできないエアコンのようなものは、どう考えたって全部いっぺんに入るわけがないですから、何年か経って入ることが前提でそれならば扇風機であるか冷風機であるか、あるいは先ほど話題に上がったタオル

であるとかそういった類のものでその場をしのげるものをやらないと、とにかく命は守れないのでそこは検討しました。多分そこは教育総務課でも意識した上で、それを仕組んでいると思います。こんなこともあって、できることは何なのか、今やらなければいけないのか、もう少し先でもいいかということを考えてやっています。

それと同時に、安心安全の関係で気になっているのは、どうしても昔ながらのイメージでいた時に近所の皆様がいるから、近所の目があるから目の前にいる子ども達を把握しているという発想は段々希薄になってきたことは事実だと思うんですね。私の体験でいうだけでなしに、多分皆様方も昔はお節介のおばさんおじさんがいたと思うんですね。近所では何かあるというと、全く関係ないおじさんから怒られたとか、そういう方たちの存在が無くなってきていますので、それならばまた違った方策をこちらから提供しなければならぬのかなと。例えば、ご近所付き合いだと煩わしいとかめんどくさいという発想が良く出てきます。聞くと、花見行くのが嫌だとか納涼祭行きたくないとか、神社の仏閣のそういうものについてはあまり出ないというように言うんですが、学校関係を通してお願いしているのは、地域の行事に親子で出ませんかということです。子どもだけ出すことは指導できるんですが、先生方も地元に戻ったら地域人として自分のお子さんを地域の行事に参加できるようなものを体験したところで、ようやく多忙化の解消になるという言い方を私はしています。ですから、煩わしさや面倒くさいことの体験が、それを経ると温かいことであるのは嬉しいことであるんだな、面白いことであるんだなということを子ども達に学ばせたい。結局、防犯の話がありましたけれども、ゴミを拾う子どもはゴミを捨てないようになります。ということで、犯罪を犯す犯さないことのブレーキになるのはやっぱり子どもの段階からそういうものを体験知で教えていかなければ上手くいかないかなというの、教育の発想からいくとそういうところに重きを置いて何とかしていきたいなと思っております。

それが多分、御殿場市でいう子ども条例行動計画に掲げて市長さんが何回も言っている通り、一番の原点は家庭の教育なんですね。家庭教育は、わざわざ教育基本法を持ち出すまでもなく、そういう形で位置づけされているのが事実であって、それならば、そこを丁寧にして、なおかつ分かっていたらどこからやっていくのか。とにかくやれることを、私達がやれるというイメージを伝えていかなければ、なかなか実現できないので、こうした形で保護者の方にも伝えるという努力をしています。

ですから、教育委員の皆様方も、各地域で色々な面を見て携わっていただいておりますので、そこで体験されたことが定例教育委員会での発言になって、また違った形で波及するという良さがあるで、御殿場市では教育委員さんの存在が大きいのかなという気がしております。今回は、2つのテーマで絞って話をさせてもらいましたが、一番良かったのがそれぞれの教育委員さん方の立ち位置で、ご自身の思っていることからの発言をいっぱいして下さったことについては、本当に感謝したいと思います。

私も大変勉強させてもらいました。ありがとうございました。以上です。

市長

---

ということで、まだまだ話したいこともあるかと思えますけれども、そろそろお時間でございますので、事務局にお返しします。ありがとうございました。

## 5 閉会

---

教育総務課長

---

市長、ありがとうございました。教育委員の皆様もありがとうございました。本当に思いもよらぬほど活発な意見交換をいただいたようでございます。時間も押ししてしまいましたけど、本日皆様方よりいただきましたご意見につきましては、やはり今後の教育委員会の運営に反映させられるように努めてまいりたいと思います。本日の協議としては以上となります。

ここで、次回の総合教育会議の日程等について、申し上げます。次回は11月30日金曜日、午後1時30分から行います。これは総合教育会議の中で取り上げなさいとされている来年度の予算についてということで、なかなか本市としても難しいところでございますが、それにつきましては確実な開催を予定しております。また会場等につきまして、詳しい内容をご連絡させていただきますので、よろしく申し上げます。それでは市長、教育委員の皆様、長時間になるご協議、誠にありがとうございました。

以上をもちまして、第1回総合教育会議を終了させていただきます。

午後3時37分閉会

---